

平成24年度進行管理・評価シート
水戸市歴史的風致維持向上計画（平成22年2月4日認定）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)

- 1 ①水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループによる課題 1
検討／②水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会の推
進／③水戸市歴史的風致維持向上計画協議会の実施

②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)

- 1 水戸市景観計画の活用 2

③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)

- 1 偕楽園公園整備事業 3
2 弘道館公園整備事業 4
3 第二中学校周辺環境整備事業 5
4 備前堀沿道地区都市景観形成助成事業 6
5 水戸市民俗芸能文化財等伝承事業補助金交付事業 7

④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)

- 1 文化財指定, 調査, 保存管理計画策定等の推進 8
2 文化財の修理, 整備, 防災事業の推進 9
3 文化財に関する普及・啓発の推進 10
4 重点区域内における埋蔵文化財の取扱いの強化 11

⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)

- 1 「水戸城大手門は江戸後期再建か」他 12

□総括評価シート【方針の達成状況等】(様式2)

- ①計画に記載している方針(様式2-1) 13

□総括評価シート【代表的な事業の質の評価】(様式3)

- ①歴史的風致維持向上施設の整備・管理(様式3-1) 18

- 法定協議会等におけるコメントシート(様式4) 21

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
①水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループによる課題検討 ②水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会の推進 ③水戸市歴史的風致維持向上計画協議会の実施		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	○水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会:計画の策定及び推進に伴う庁内の連絡調整を所掌 ○水戸市歴史的風致維持向上計画協議会:地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第11条第1項の規定により組織。計画の策定及び変更並びに実施に係る連絡調整を所掌		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成21年度より主要事業に順次着手しているが、事業により新たな課題が生じており、計画の円滑な推進を図るため、平成22年2月より水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会の下部組織として、水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループを設置し、課題の調査及び検討を行った。 【各会議の実施回数】 ①水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループ (3回) ②水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会 (3回) ③水戸市歴史的風致維持向上計画協議会 (2回)			
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)			
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
① 水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループ会議 (座長:文化課長, 副座長:都市計画課長, 委員:関係課長補佐) ○第1回:平成24年5月17日開催 ・平成23年度進行管理・評価シートについて ・今年度の取組について ○第2回:平成24年8月27日開催 ・歴史まちづくり(弘道館・水戸城跡周辺地区)について ○第3回:平成25年2月21日開催 ・水戸市歴史的風致維持向上計画の改定(案)について		 水戸市歴史まちづくり推進ワーキンググループ	
② 水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会 (委員長:教育次長, 副委員長:都市計画部長, 委員:関係課長) ○第1回:平成24年5月28日開催 ・平成23年度進行管理・評価シートについて ・これまでの経緯について ・今年度の取組について ○第2回:平成24年8月31日開催 ・歴史まちづくり(三の丸周辺地区)に係る課題等について ・今年度の取組について ○第3回:平成25年2月26日開催 ・水戸市歴史的風致維持向上計画の改定(案)について		 水戸市歴史的風致維持向上計画検討委員会	
③ 水戸市歴史的風致維持向上計画協議会 (座長:茨城県文化財保護審議会会長, 他) ○第1回:平成24年5月29日開催 ・平成23年度進行管理・評価シートについて ・これまでの経緯について ・今年度の取組について ○第2回:平成25年3月1日開催 ・水戸市歴史的風致維持向上計画の改定(案)について			

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	平成24年度
水戸市景観計画の活用		現在の状況 ☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 水戸市景観計画に基づき、重点区域内の4つの地区(三の丸周辺地区、偕楽園周辺地区、保和苑周辺地区、備前堀周辺地区)を重点的に景観形成を図る地区として位置づけ、それぞれの景観形成方針の下に重点的に景観形成を図ることとしている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ①大規模建築物等の景観誘導:水戸市景観計画(平成20年度策定)及び水戸市都市景観条例(平成4年度施行)により、良好な景観の形成に支障を及ぼす行為(大規模建築物等)の事前届出制度による景観誘導を図っている。(平成24年度届出件数:42件(水戸市全域))
- ②建築物等の行為の制限:重点区域を含む市街化区域全域(既に高さ規制のある地域を除く)について、高度地区の都市計画決定(平成22年度)により、歴史的資源や自然景観の保全、良好な住環境の保全及び秩序ある都市環境の創出を図っている。
- ③屋外広告物の行為の制限:水戸市屋外広告物条例(平成22年度施行)により、重点区域内の「偕楽園・千波湖周辺地区」及び「弘道館周辺地区」を屋外広告物特別規制地区に指定することで規制を強化し、良好な眺望景観の保全を図っている(平成24年度許可件数:529件(水戸市全域))。既存不適格広告物に関しては、これまで条例に適合するよう是正指導を行い、撤去又は改修を促し、一定の効果をあげている。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- ☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

①大規模建築物等の景観誘導

良好な景観の形成に支障を及ぼす行為(大規模建築物等)について、事前届出制度による景観誘導を図っている(対象区域:水戸市全域)。

②建築物等の行為の制限

重要な歴史的資源や自然等の良好な景観を保全する地区については、地域の特性に応じた規制値を設定した。

【良好な景観を保全する地区】

- 水戸駅北口地区、●弘道館周辺地区、●芸術館周辺地区、●偕楽園周辺地区、●備前堀周辺地区、他

③屋外広告物の行為の制限

弘道館や偕楽園等の水戸を代表する魅力ある眺望景観の保全を図るため、水戸市景観計画において、屋外広告物の行為の制限について特に重点的に景観形成を図る区域と位置づけた区域を、「屋外広告物特別規制地区」に指定した。これらの地区については、高い位置に設置が可能となる屋上利用広告物などを規制することにより、良好な眺望景観を保全することを目指す(条例第6条)。

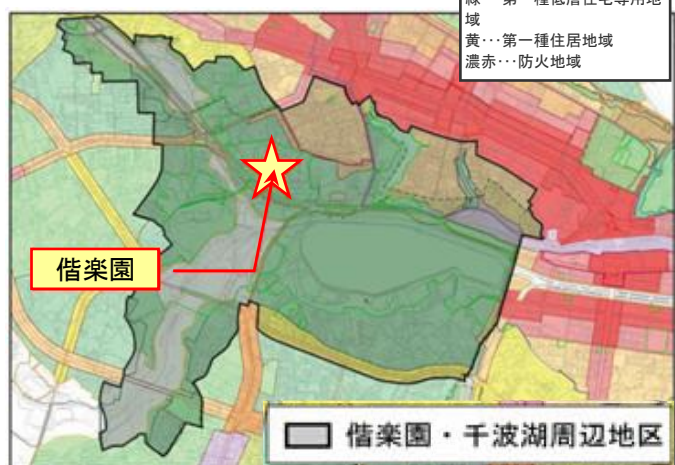
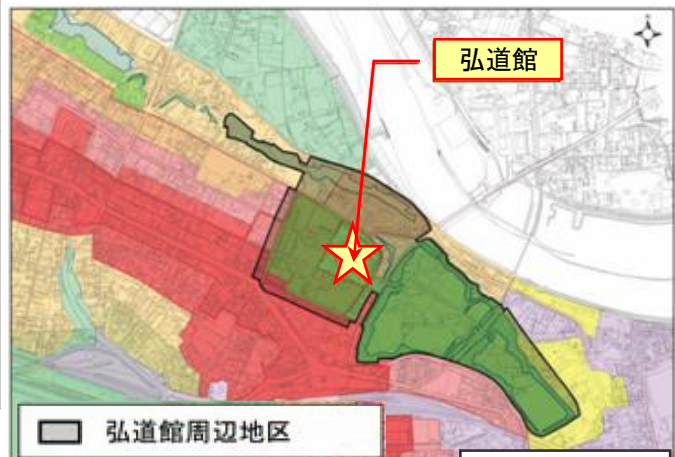
【規制内容】

これらの地区では、次の屋外広告物は表示できない。

- アドバルーン ●屋上利用広告物 ●電光装置等を用いる屋外広告物(電光ニュース・ビジュアルボード等)

また、次の基準を満たす必要がある。

- 表示面積の1/4を超えて彩度8を超える色彩を使用しないこと。 ●蛍光、発光又は反射を伴う塗料又は材料を使用しないこと。 ●ネオン、点滅する照明、回転灯等を使用しないこと。



屋外広告物特別規制地区

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成24年度
		現在の状況	
偕楽園公園整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	

事業期間 昭和43年度～平成25年度

支援事業名 県単独事業, 社会資本整備総合交付金(都市公園事業)

計画に記載している内容 好文亭等現存する歴史的建造物の保存修理, 表門の周辺整備, 土塁整備, 園路整備, 植栽整備等

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

東日本大震災による復旧工事が平成23年度に完了し, 平成24年2月に再オープンした。本県における震災復興のシンボルとして, 偕楽園の歴史性を踏まえた環境整備を進め, 魅力向上を図るため, 平成24年度は次に掲げる事業に着手した。

- ①東日本大震災における事故対応を踏まえた防災設備(半埋型スピーカー)の設置: 平成25年1月終了
- ②歴史的景観に調和したインフォメーションセンターの設置: 平成26年2月終了見込
- ③園内樹木の保護(根腐れ防止)を目的とした排水設備の整備: 平成25年2月終了
- ④諸門及び井戸屋形の補修: 平成25年2月完了

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- ☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



①防災設備(半埋型スピーカー)設置状況写真



②インフォメーションセンターのイメージ図



③園内樹木周辺の滞水状況写真



④井戸屋形の補修箇所写真

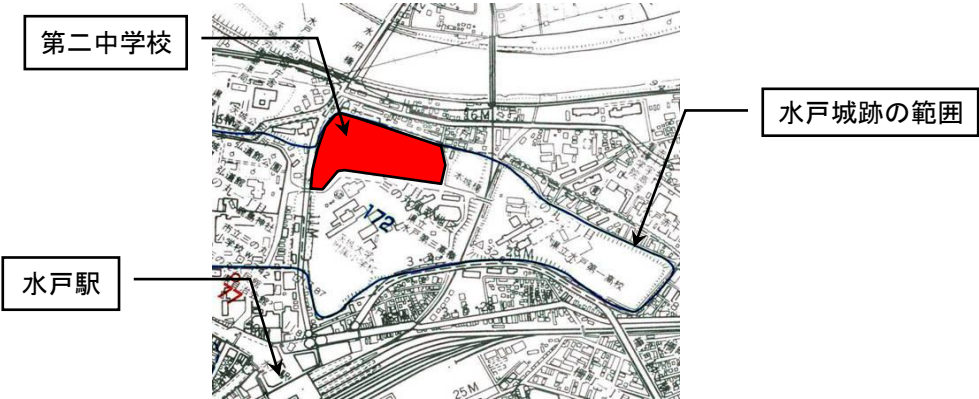
評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
弘道館公園整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成21年度～		
支援事業名	○国有財産：国直轄事業 ○県有財産：史跡等・登録記念物・歴史の道保存整備費国庫補助		
計画に記載している内容	保存活用計画の策定，施設の保存修理，案内施設の整備等		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
東日本大震災により，重要文化財である正庁，至善堂，正門，特別史跡内の学生警鐘，弘道館記碑，孔子廟，孔子廟戟門及び築地塀，種梅記碑等が多大な被害を受けた。現在，被災建物内への入場を禁止し，部分公開している。こうした状況に対し，旧弘道館復旧整備検討委員会を設置し，復旧工法等を諮りながら，段階的な復旧を実施した。 なお，計画策定当時に予定していた至善堂等，施設の保存修理についても，震災復旧工事に伴い実施するなど，震災復旧工事を最優先で進めながらも，当初計画していた事業も進めた。			
【国有財産の進捗状況】		【県有財産の進捗状況】	
○正庁・至善堂・正門袖塀：復旧方策決定，平成25年1月着工 ○番所：復旧方策決定，平成25年1月着工 ○孔子廟戟門：復旧方策決定，平成25年1月着工 ○学生警鐘：復旧方策決定，平成25年1月着工 ○種梅記碑：復旧方策を検討中 ○八卦堂・弘道館記碑：復旧方策を検討中		○孔子廟：平成24年12月復旧完了 ○孔子廟築地塀：平成24年12月復旧完了 ○正庁周囲築地塀：平成24年12月復旧完了 ○国老詰所：復旧方策決定，平成25年度着工予定 ○便所・浴室(正庁・至善堂付帯施設)：復旧方策決定，平成25年度着工予定	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
○復旧が完了した建造物の例① 孔子廟			
			
復旧前 孔子廟下部が外側にズレて開いたため，格子扉が落下している。		復旧後 孔子廟の建て起こしを行い，ズレを修復した。	
○復旧が完了した建造物の例② 正庁周囲築地塀			
			
復旧前 築地塀上の瓦の大部分が破損・落下した。		復旧後 創建当時の瓦と同じ型を用いて瓦を製作し，葺き直した。	

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成24年度
		現在の状況	
第二中学校周辺環境整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成22年度～平成25年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	実施設計、発掘調査及び遺物整理・報告書作成、学校敷地修景整備、正門・展示休憩室(二の丸展示館)整備、歩道整備、見晴台整備		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
○遺物整理、正門・二の丸展示館整備:平成24年度完了			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
①正門・二の丸展示館写真			
			
整備前(外観) 旧水戸城内にありながら、現代的外観の校舎が建っていた。		整備後(外観) 校舎・正門・外構を城跡にふさわしい意匠に整備するとともに、二の丸展示館を創設した。	
②出土遺物整理状況写真			
			
校舎改築に伴う発掘調査の出土品は数万点に及び、報告書作成に向けた出土遺物整理を実施した。		整備後(二の丸展示館内部) 学校施設内ながら、外部から自由に見学できるように配慮した。水戸城の歴史を知ることのできる施設として、開館以来好評を博している。	
			

評価軸③-4

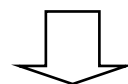
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
備前堀沿道地区都市景観形成助成事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手	
事業期間	平成15年度～		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	備前堀沿道区域における優れた都市景観づくり(備前堀の持つ歴史性と調和した和風による統一感のあるまちなみの形成)に寄与する行為に対して、助成金を予算の範囲内で交付する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成24年度助成事業:2件(屋根改修事業, 建築物の新築事業)			
① 建築物の屋根改修事業:震災により損壊した屋根瓦の葺き替えを行った(平成24年度着手・終了)。			
② 建築物の新築事業:新たに景観形成基準に沿った建築物(住宅)を建築する(平成24年度着手)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			

①建築物の屋根改修事業



震災により屋根が損壊



屋根の葺きかえを実施



事業完了後の備前堀

助成実施箇所

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		平成24年度
項目		現在の状況
水戸市民俗芸能文化財等伝承事業補助金交付事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成19年度～	
支援事業名	市単独事業	
計画に記載している内容	無形民俗文化財等の伝承保存及び後継者育成を図るため、市内の民俗芸能団体の活動に対し補助金を交付し、重点区域を含む各地域の歴史的風致を生かした魅力あるまちづくりを、官民協働により推進する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
〇助成団体: 6団体(大串ささらばやし保存会、大野みろくばやし保存会、杖友会、水戸市民俗芸能団体協議会、向井町散々楽保存会、水戸若鷺会) ※計画に記載している助成団体数は7団体であるが、うち1団体は隔年補助のため、24年度は6団体に助成。 〇助成金額: 総額660千円		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	無形民俗文化財団体の発表の場が限られているため、隔年で「郷土民俗芸能のつどい」を開催し、周知を図る。	
状況を示す写真や資料等		
 大串ささらばやし(大串ささらばやし保存会) 開催日: 平成24年11月11日 開催場所: 埋蔵文化財センター(風土記の丘ふるさとまつり)  大野みろくばやし(大野みろくばやし保存会) 開催日: 平成24年11月11日 開催場所: 埋蔵文化財センター(風土記の丘ふるさとまつり)  田谷の棒術(杖友会) 開催日: 平成25年2月3日 開催場所: 国田公民館(生涯学習フェスティバル)  はしご乗り(水戸若鷺会) 開催日: 平成25年1月13日 開催場所: 千波公園(消防出初式)		

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		平成24年度
項目		現在の状況
文化財指定、調査、保存管理計画策定等の推進		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	市内に存在する歴史的に価値の高い文化財を、取扱に関する啓発の不足、開発及び生活環境の変化による消滅・損壊から積極的に保護するため、種類別に調査を実施し、実態の把握や文化財の指定に努め、効果的な保存・管理を図る。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
【平成24年度の水戸市指定物件】 ※指定年月日:平成25年2月8日 ①春日神社本殿 附棟札2枚、扉板2枚 1棟 (建造物) ②獨杯集 4冊 (歴史資料) ③加倉井砂山の墓 2基 (歴史資料) ④北辰一刀流 (無形文化財)		
【平成24年度に実施した文化財の調査】 ①石川明善日記(市指定文化財)の翻刻(年18回)、関連講座の開催(年2回) ②祇園寺所蔵資料調査(11月19日)		
【保存管理計画の策定に向けた取組】 学術会議開催(年4回)、庁内会議開催(年5回) ①史跡吉田古墳 ②史跡台渡里官衙遺跡群		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		
平成24年度水戸市指定文化財		
 ①春日神社本殿 附棟札2枚、扉板2枚 1棟  ②獨杯集 4冊  ③加倉井砂山夫妻の墓 2基  ④北辰一刀流		
文化財の調査		
 講演会(左)  石川明善日記の調査(右)		

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
文化財の修理, 整備, 防災事業の推進		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	【文化財の修理・整備】 文化財に対する保護・整備を拡充するため, 所有者・管理者等との連携を図り, 必要に応じて修理・整備に努める。 【文化財の防災】 防災体制, 設備の整備を図るとともに, 防災訓練や啓発事業を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
【文化財の修理事業】 ○佛性寺本堂災害復旧事業 東日本大震災によって被災した重要文化財佛性寺本堂の解体修理を平成23～25年度の3か年で実施し, 旧状に復する。平成24年度は実測図調製, 調書作成, 記録作成, 仮設工事, 解体工事, 基礎工事, 建具工事を行うとともに, 一般見学会を1回, 講演会を2回実施した。 ○六地藏寺所蔵典籍文書保存修理事業 六地藏寺に伝わる平安時代以来の典籍(県指定文化財)の保存修理を昭和48年から順次実施している。平成24年度は「不二記」(6包19帖)の裏打ち補修・虫損補修を実施した。		【文化財の整備事業】 ○文化遺産説明板等の設置 (祇園寺, 台渡里官衙遺跡群) 【文化財の防災事業】 ○防災保守点検事業への補助金交付 (八幡宮本殿, 薬王院本堂, 佛性寺本堂, 中崎家住宅) ○文化財防火デーの実施 (平成25年1月24日, 於: 薬王院本堂, 参加者80名)	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
【文化財の修理事業】  佛性寺本堂災害復旧工事		修理前 	
【文化財の整備事業】  文化遺産説明板等の設置(祇園寺・恩光碑)		修理後  六地藏寺所蔵典籍文書保存修理	
		【文化財の防災事業】  文化財防火デー(薬王院)	

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		平成24年度
項目		現在の状況
文化財に関する普及・啓発の推進		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	史跡めぐりや水戸郷土かるた関連事業をはじめとする各種普及・啓発事業を推進し、市民の歴史・文化に対する意識向上を図る。 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
【平成24年度に実施した主な文化財普及・啓発関連事業】 ① 4月13日～15日、8月3日～16日、12月21日～1月6日 文化財ライトアップ 場所:水戸城跡土塁及び堀・低区配水塔 ② 7月21日・9月29日 かやぶき体験教室 場所:埋蔵文化財センター 参加者:83名 ③ 7月25日・8月8日 水戸郷土かるためぐり 場所:くれふしの里古墳公園ほか4か所 参加者:67名 ④ 7月28日 佛性寺本堂保存修理工事見学会 場所:佛性寺 参加者:80名 ⑤ 8月18日 ダイダラボウ大昔たいけん隊 場所:埋蔵文化財センター 参加者:67名 ⑥ 8月25日・26日・11月11日 勾玉をつくろう 場所:埋蔵文化財センター 参加者:188名 ⑦ 9月13日～10月21日 「弘道館・佛性寺～震災復旧への道程」展 場所:市立博物館 来館者:1,385名 ⑧ 9月15日 講演会「佛性寺と仏像たち」 場所:市立博物館 参加者:29名 ⑨ 9月16日・10月21日 ラグビー大会等での文化財の普及・啓発 場所:ケーズデンキスタジアム ⑩ 9月29日 講演会「佛性寺八角堂」 場所:市立博物館 参加者:24名 ⑪ 10月3日・10日・16日 史跡めぐり 場所:西山荘ほか4か所 参加者:119名 ⑫ 10月14日・21日 講演会「弘道館訓導の日記から幕末の水戸を語る」 場所:市立博物館 参加者:89名 ⑬ 11月11日 風土記の丘ふるさとまつり 場所:埋蔵文化財センター 参加者:6,500名 ⑭ 11月18日 世界遺産登録推進国際シンポジウム「近世日本の教育遺産」 場所:水戸芸術館 参加者:300名 ⑮ 12月9日 公開講座「考古学からみた7世紀の政治活動」 場所:埋蔵文化財センター 参加者:47名 ⑯ 1月5日～2月3日 水戸郷土かるた大会 場所:市内各所 参加者:3,009名 ⑰ 2月17日 水戸郷土かるた中央大会 場所:茨城県武道館 参加者:392名		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	本市の歴史的資源の周知及び魅力向上に向け、引き続き普及・啓発事業を推進する。	
状況を示す写真や資料等		
		
①文化財ライトアップ	②かやぶき体験教室	③水戸郷土かるためぐり
		
④佛性寺本堂保存修理工事見学会	⑤ダイダラボウ大昔たいけん隊	⑥勾玉をつくろう
		
⑦弘道館・佛性寺展	⑩講演会「佛性寺八角堂」	⑪史跡めぐり
		
⑬風土記の丘ふるさとまつり	⑭世界遺産登録推進国際シンポジウム	⑰水戸郷土かるた中央大会

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

評価対象年度		平成24年度
項目		現在の状況
重点区域内における埋蔵文化財の取扱の強化		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	・旧水戸城・城下町における埋蔵文化財の包蔵状況の把握及び保護に努める。 ・必要に応じて試掘・確認調査や工事立会を実施するなどの確認作業を行い、適宜周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡地図に反映させていく。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
○旧水戸城・城下町における試掘・確認調査:5件 ○遺跡地図の改訂:平成24年4月改訂。埋蔵文化財包蔵地「水戸城跡」の範囲を拡大するとともに、城下町関連遺跡として「三ノ町遺跡」「旧借楽園」を新規登録した。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		
○重点区域内の埋蔵文化財調査の例(水戸城大手門跡の発掘調査)		
【調査名】水戸城跡第1地点(第30次調査) 【所在地】水戸市三の丸2丁目 【調査期間】平成24年6月5日～8日 【調査面積】2.1㎡ 【調査概要】 ○古写真に写っている大手門は、再建であることが判明した。再建時期は、第9代藩主徳川斉昭(1800-60)の時代の可能性が高い。 ○大手門の側溝を発見した。側溝の設置は、初代藩主徳川頼房(1603-61)の水戸城大改修の時代の可能性が高い。 ○大手門に葺かれていた軒瓦の様子は、全て三つ葉葵で、角檜より若干肉厚の、重厚な屋根だったと思われる。  大手門の礎石 斉昭の時代か 大手門の側溝 頼房の時代か		
【調査名】水戸城跡第1地点(第32次調査) 【所在地】水戸市三の丸2丁目 【調査期間】平成24年8月20日～9月4日 【調査面積】5.0㎡ 【調査概要】 ○徳川頼房が建てたと思われる、大手門の礎石を2箇所初めて発見した。 ○第30次調査時に判明した「徳川斉昭による大手門再建説」を裏付ける成果を確認した。  大手門の礎石 頼房の時代か  大手門の礎石 頼房の時代か		
第32次調査地点  発掘調査区の位置 第30次調査地点  【参考】大手門古写真(明治中頃撮影)		

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	評価対象年度	平成24年度 掲載紙等
水戸城大手門は江戸後期再建か	平成24年6月8日		NHK水戸放送局
水戸城大手門 斉昭時代に再建か	平成24年6月8日		茨城新聞
大手門の側溝と瓦発見	平成24年6月8日		毎日新聞
水戸城大手門は再建	平成24年6月8日		常陽新聞
大手門、江戸後期に再建か	平成24年6月8日		朝日新聞
「水戸城大改修」の側溝や瓦発見	平成24年6月8日		産経新聞
水戸・佛性寺本堂の骨組み学ぶ 市民80人、屋根部分見学	平成24年8月2日		茨城新聞
水戸城大手門 位置がほぼ判明	平成24年8月30日		茨城新聞
水戸城大手門柱の礎石	平成24年8月30日		毎日新聞
水戸城に初代藩主礎石	平成24年8月30日		NHK水戸放送局
被災こえ文化財に光 弘道館・仏性寺の60点展示	平成24年9月13日		朝日新聞
水戸市でかやぶき体験教室	平成24年9月30日		NHK水戸放送局
水戸の佛性寺八角堂 16世紀創建時の姿に復元へ	平成24年9月30日		常陽新聞
修復中の弘道館・仏性寺企画展 斉昭直筆の扁額、間近に	平成24年10月7日		茨城新聞
はしご乗り妙技披露 水戸市出初め式	平成25年1月14日		茨城新聞
火災から文化財守れ 水戸・薬王院消火訓練	平成25年1月25日		茨城新聞
本堂の火を消せ 水戸・薬王院で訓練	平成25年1月25日		読売新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

報道により、現場見学や資料提供等の問い合わせが県内外から集中するなどの反響があった。

進捗状況 ※計画年次との対応

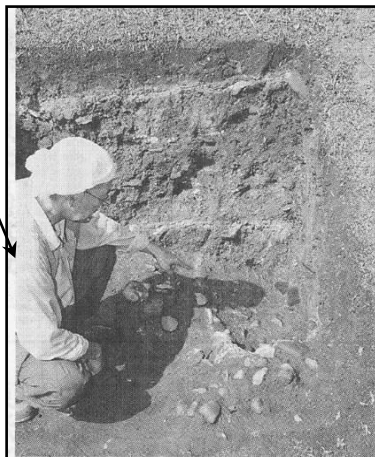
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり

■計画の進捗に影響なし

近年、情報発信ツールが多様化していることから、ソーシャルネットワーク等のツールを活用していく。

状況を示す写真や資料等

茨城新聞
平成24年8月30日茨城新聞
平成24年8月2日

前調査では、右側の茨城大付属小の土塁から一角を不す大土塁の礎石の一部を発見。市教委は今回見つかった礎石跡とは対であるとの見方を示す。この2点を超え、門

土塁から発見された礎石跡(中央の白線で囲まれている部分)は、水戸市三の丸の目

水戸城大手門

位置がほぼ判明

土塁から礎石跡発見

水戸市教委による水戸城大手門跡発掘調査で、大手門の位置と平面規模が20日までに、ほぼ判明した。同日、20日に始まった今回の調査は弘道館から見て左側の水戸二中の土塁で実施。門の四隅の一角を示す礎石跡が見つかった。市教委によると、礎石は一边の長さが少なくとも90センチを超していたと推測される。

前調査では、右側の茨城大付属小の土塁から一角を不す大土塁の礎石の一部を発見。市教委は今回見つかった礎石跡とは対であるとの見方を示す。この2点を超え、門

全国で希少な八雲の本堂が知られ、重宝の宝庫とされ、市教委は「本堂の骨組みを学ぶ」をテーマに、市民80人を招き、本堂の骨組みを学ぶ。市教委は「本堂の骨組みを学ぶ」をテーマに、市民80人を招き、本堂の骨組みを学ぶ。

本堂の骨組み学ぶ



足場から佛性寺本堂の屋根部分を学ぶ参加者は水戸市薬師町三さん(左)はこれら

の幅に当たるとみられ、約17メートルあった。礎石跡と約5・4メートル離れた場所、約40メートル四方の小形の礎石も発見。市教委はこの小形の礎石が反対側の一角のすぐ近くにあったと推測、礎石跡との距離が門の奥行きに当たるとした。

このほか、前調査で判明した大手門が水戸藩9代藩主・徳川斉昭の時代に再建されていたことを裏付ける土塁の層も今回、見つかった。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成21年度～24年度
計画に記載している方針	水戸の歴史的風致を形成する文化財建造物に代表される多様な歴史的建造物の積極的な保存と活用を図る。
計画に記載している課題	水戸は関東有数の城下町であったが、昭和20年8月の戦災で当時の市街地の約7割を焼失し、多くの歴史的な建造物や街並みが失われた。しかしながら、奇跡的に歴史的建造物や数多くの史跡が現存しており、この他にも、指定・登録が可能な歴史的建造物や現在遺跡等になっている場所において、建造物等の整備・復原が可能なものがある。 特に水戸城跡については、「旧弘道館」と「県指定史跡」以外は、学校や官公庁の敷地となっているため、当時の城郭を偲ぶことができない。また、復原可能な建造物があっても、調査・研究が不十分である。
対応する進捗評価項目とその推移	③偕楽園公園整備事業(昭和43年度～平成25年度) 東日本大震災による復旧工事及び経年による補修・整備工事等を実施した。 ③弘道館公園整備事業(平成21年度～) 東日本大震災による復旧工事を段階的に実施している。 ③八幡宮拝殿及び幣殿保存修理事業(平成20～23年度) 平成の大修理(半解体修理)を実施した。 ③横山大観生誕の地整備事業(平成21年度) 横山大観生誕の地である旧酒井家屋敷跡の土地の一部を取得し、建造物(門、塀等)の設置、顕彰碑、案内板等の整備を実施した。 ③第二中学校周辺環境整備事業(平成22～25年度) 実施設計、発掘調査及び遺物整理・報告書作成、学校敷地修景整備、正門・展示休憩室(二の丸展示館)整備を段階的に実施している。 ③備前掘沿道地区都市景観形成助成事業(平成15年度～) 震災により損壊した屋根瓦の葺き替え、新たに景観形成基準に沿った建築物に助成した。 ④二の丸角櫓範囲確認調査(平成22～23年度) 角櫓の遺構、柱礎石、三葉葵紋の鬼瓦、釘、鏝等が出土し、「水戸城実測図」と同規模の可能性が高いことが判明した。 ④二の丸遺構計測調査(平成23年度) 角櫓建築のための造成痕跡、石組遺構の痕跡が確認された。 ④水戸城跡関連整備検討調査(平成23年度) 絵画、古写真、発掘調査等の成果から大手門、二の丸角櫓の復元は、技術的に可能であるとの結果が出た。 ④旧水戸城大手門範囲確認調査(平成24年度) 大手門の側溝、礎石、三葉葵の瓦等が出土され、大手門は、江戸時代後期に再建されたことが判明した。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○「偕楽園公園整備事業」「弘道館公園整備事業」「八幡宮拝殿及び幣殿保存修理事業」「横山大観生誕の地整備事業」「第二中学校周辺環境整備事業」の5事業については当計画を通じ実施したことにより、水戸の歴史的風致を形成する多様な歴史的建造物について積極的な保存と活用を図ることができた。 ○さらに、調査・研究が必要とされていた水戸城跡周辺地区については、「二の丸角櫓範囲確認調査」「二の丸遺構計測調査」「水戸城跡関連整備検討調査」「旧水戸城大手門跡範囲確認調査」を実施し、水戸城建造物の規模、歴史的変遷等が判明し、今後の事業計画に資することができた。

達成状況の評価、要改善事項	☒ 想定通り効果が発現している ☐ 今後発現が予想される ☐ 要対策検討 ☐ 現段階では判断できない (要改善事項)
計画見直しの必要性	☐ 計画の見直しが不要 ☒ 計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 水戸東武館を移築整備し、建造物の修景等を実施することによる、本市の歴史的風致の更なる向上のため、当該事業を計画変更により位置付ける必要がある。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成21年度～24年度
計画に記載している方針	水戸の歴史的風致に息づく民俗芸能、年中行事などの継承、育成を図る。
計画に記載している課題	各神社で執り行われる祭礼、「大串のささら」や「大野のみろく」等の民俗芸能、水府流水術や北辰一刀流等の武芸、梅まつり等の伝統行事が、主に江戸時代に由来を持つ歴史と伝統を踏まえた人々の活動が数多く残されているが、近年では、継承する人々の高齢化が進んでいる。また、参加者の減少や規模の縮小等もみられる。このため、担い手の継承や運営組織の強化が課題となる。
対応する進捗評価項目とその推移	③水戸市民俗芸能文化財等伝承事業補助金交付事業(平成19年度～) 無形民俗文化財等の伝承保存及び後継者育成を図るため、市内の民俗芸能団体の活動に対し補助金を交付している。また、隔年で「水戸市郷土芸能のつどい」を実施し、無形民俗芸能活動の発表の場を設け、周知を図っている。 水戸市民俗芸能文化財等伝承事業補助金交付事業については、平成23年度には7団体、平成24年度には6団体に交付し、伝承保存及び後継者育成のための助成を行った。 また、発表の場として、次に掲げるイベントを実施した。 ・第14回水戸市郷土民俗芸能のつどい - 開催日：平成23年11月27日(日) 開催場所：水戸芸術館 - 参加団体：9団体 観客数：371人 ④文化財指定の推進 歴史的価値の高い民俗芸能等については、文化財(無形文化財)指定を通じ、効果的な保存・管理を図っている。 ・田谷の棒術(平成23年度 市無形文化財指定) ・北辰一刀流(平成24年度 市無形文化財指定)
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	市指定の無形文化財は、計画策定前は「水府流水術」の1件のみであったが、平成23～24年度にかけて「田谷の棒術」及び「北辰一刀流」を新たに指定した。こうした郷土の伝承文化や弘道館剣術の文化財指定により、後世への継承や運営組織の強化が期待できる。
達成状況の評価、要改善事項	■想定通り効果が発現している □今後発現が予想される □要対策検討 □現段階では判断できない (要改善事項)
計画見直しの必要性	■計画の見直しが不要 □計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針)

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成21年度～ 24年度
計画に記載している方針	まちづくりと連動し、文化財と周囲の環境との一体的な保全を図る。
計画に記載している課題	弘道館・水戸城跡周辺地区は、現代風の建造物が多く、隣接する地域においては高層建築物や屋外広告物の増加がみられ、眺望景観を保全するのに課題を残している。 偕楽園の本来の入り口である「表門」に至る道筋がわかりにくい。また、周辺地区は様々な建築様式の住宅が見られ、道路においても電柱等で景観が損なわれている。 偕楽園から望む千波湖、円山、桜山方面の眺望景観については、保全が図られているが、その周辺地区において、高層建築物や巨大な広告物の増加等、景観に大きな影響を与える行為が行われる可能性がある。
対応する進捗評価項目とその推移	②水戸市屋外広告物条例の運用 条例の制定により、重点区域内の「偕楽園・千波湖周辺地区」、「弘道館周辺地区」を屋外広告物特別規制地区に指定することにより、良好な眺望景観の保全が図られている。 ②高度地区の運用 重点区域を含む市街化区域全域について、高度地区の都市計画決定により、良好な住環境の保全及び秩序ある都市環境の創出が図られている。 ②水戸市景観計画及び都市景観条例の運用 景観法に基づき、良好な景観の形成に支障を及ぼす行為について、事前届出制度により景観誘導が図られている。 ③千波公園整備事業(平成21年度) 進入路、親水空間、園路整備工事等を実施した。 ③元吉田緑地整備事業(平成21年度) 公園敷地の造成及び園路整備工事を実施した。 ③保和苑整備事業(平成21年度) 階段及び園路整備工事を実施した。 ③備前掘水辺景観づくり事業(平成21年度) 照明灯(14基)の設置、階段及び緑道の補修工事を実施した。 ③偕楽園周辺地区道路景観整備事業(平成20年度～21年度) 「好文亭表門通り」、「偕楽園御成門通り」を道路改良及び電線地中化したことにより、周辺の歴史性と調和した景観形成が進展した。 ・好文亭表門通り 延長590m ・偕楽園御成門通り 延長280m ③第二中学校周辺環境整備事業(平成22～25年度) 実施設計、発掘調査及び遺物整理・報告書作成、学校敷地修景整備、正門・展示休憩室(二の丸展示館)整備を段階的に実施している。
方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容 (可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)	○水戸市屋外広告物条例、高度地区、水戸市景観計画、都市景観条例の運用により、条例に適合するよう是正指導を行い、撤去又は改修を促し、文化財と周囲の一体的な保存に向け、一定の効果を挙げることができた。 ○偕楽園周辺の景観整備については、道路改良工事及び電線共同溝(地中化)整備、道路美装化により、電線や電柱が無くなり、良好で価値のある歴史的・上空景観の形成が図られた。
達成状況の評価、要改善事項	■想定通り効果が発現している □今後発現が予想される □要対策検討 □現段階では判断できない (要改善事項)
計画見直しの必要性	□計画の見直しが不要 ■計画の見直しが必要 (見直しの理由・方針) 歴史・観光ロードの整備(道路拡幅、車道・歩道の再整備、電線地中化)により歴史的景観を創出させ、歴史的風致の維持及び向上に寄与するため、北三の丸通り及び御杉山坂の道路景観整備事業を計画変更により位置付ける必要がある。

評価対象年度	21 年度～ 24 年度
・歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
代表的な取組①: 歴史的風致形成建造物「八幡宮拝殿及び幣殿」の保存修理事業 (取り組み概要) 八幡宮拝殿及び幣殿は、保和苑周辺地区に位置しており、重要文化財八幡宮本殿に付随する当該地域固有の歴史文化を象徴する建造物である。これを修理し適切に維持することは、失われつつある歴史的街並みを活用する上で必要不可欠であり、適切に保護・保存することにより、当該地区の歴史的風致の一層の維持向上が図られる。 ・保存修理事業完了までの経過 ○平成9年 水戸市指定文化財に指定(建造物) ○平成15年頃より老朽化に伴う雨漏れや木部の腐朽が散見されるようになる ○平成20年度(基本設計・仮設工事) - 平成20年10月 基本設計開始 - 平成21年1月 保存修理工事着工 ○平成21年度(解体・発掘調査・組立・基礎・木工事) - 平成21年8月 発掘調査実施 - 平成22年2月 歴史的環境形成総合支援事業での保存修理事業交付決定 ○平成22年度(組立・屋根・木工事) - 平成22年4月 第1回工事現場公開見学会実施 - 平成22年10月 第2回工事現場公開見学会実施 ○平成23年度(軸部補修・建具・石・雑工事) - 平成23年6月 竣工	
	
(自己評価) 八幡宮拝殿及び幣殿の位置する保和苑周辺地区は、古くから寺町・花町として栄えた地区として、歴史的景観の残る場所である。 八幡宮拝殿及び幣殿は、安永4年(1775年)に建立された入母屋造りの建造物で、北関東の江戸中期の建築としては、珍しく無駄な装飾を省いた美しい外観が特徴である。重要文化財八幡宮本殿など、その他指定建造物を含め、水戸を代表する神社建築として、多くの拝観者・見学者が訪れている。また、毎年4月に行われている例大祭をはじめ、各季節の祭礼の際には、市内外から多くの観光客が訪れ、あじさいまつりや神事流鏝馬祭、湯清め神事、節分追儺式等の伝統的な活動が営まれている。 今回の修理事業により、その歴史的景観を良好に保ち、より一層の歴史的風致の維持向上を図ることができたことはもちろん、今回の修理事業に伴って実施した発掘調査によって、当該建造物の修理の変遷や、埋納遺構の遺存状況などが明らかになり、文化財としての価値も一層高まることとなった。また、修理事業の過程で実施した修理現場公開見学会においては、多くの市民が参加し、文化財の重要性を理解するとともに、当該地区における歴史的風致維持向上の認識も高まった。	
(外部評価) ・外部有識者名(役職・肩書き等): 濱島正士(国立歴史民俗博物館名誉教授、工学博士) ・外部評価実施日: 平成25年5月20日 ・有識者コメント 八幡宮は水戸の総鎮守として創記されたが、江戸時代、領主交替によって一旦郊外へ遷されたあと、水戸住民の願いにより再び町中に遷されたという、水戸にとって極めて重要な歴史をもつ。今回の拝殿及び幣殿の保存修理工事は、文化財建造物の保存に精通した専門技術者の指導・監督のもと、社寺建築に経験の深い施工者によって、文化財として適切に実施され、その内容と併せて行われた各種の調査結果が記録保存されており、高く評価できる。また、工事中の見学会を通して、地域の住民に文化財としての価値と保存の必要性が正しく理解されたであろうことも意義が深い。 平成11年の本殿(重文)に続いて拝殿及び幣殿の保存修理が終了し、八幡宮境内の歴史的景観と環境がより一層整えられて価値が高まり、「重点的に景観形成を図る地域」の中核として、歴史的風致の維持・向上に大きな効果をもたらすものと考えられる。今後、この地域の歴史的風致を生かした町づくりが、よりの確に進められることが期待できる。	
(今後の対応方針) 現在は、神社地の境内として常時一般公開されている。今後も、建造物の景観を良好に保ちながら、八幡宮の例大祭などの祭礼行事と合わせて、当該地区の歴史的環境の維持向上に努める。	

総括評価シート【代表的な事業の質の評価】

(様式3-1)

評価対象年度	21 年度～ 24 年度
・歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
代表的な取組①: 好文亭表門通りの歴史性に配慮した道路美装化及び電線地中化 計画書に記載した事業名 偕楽園周辺周辺地区道路景観整備事業 (取り組み概要) 好文亭表門通りは、徳川斉昭公が偕楽園の表門から入園するために通った道であるが、その歴史性に見合った沿道の景観が損なわれているため、好文亭表門通りを歴史性のある道路景観の美装化を図ることにより、沿道住民の歴史的街並みに対する意識の醸成を図った。 当該事業は、地域の方々と3回の協議会を開催し、石畳の模様(弘道館正門の石畳を現代風に模した)、舗装の色(土色)、電線地中化のための地上機器の配置及び私道の舗装復旧方法など、電線管理者を交えて市民協働で協議を行い事業を進めてきた。   着手前 完成後	
(自己評価) 水戸市と沿道住民は、この事業を通じて石畳の模様(弘道館正門の石畳を現代風に模した)や舗装の色(土色)及び地上機器の位置などを、電線管理者とともに協議を行い住民参加による歴史性のある道路景観整備が完成した。 また、平成24年3月の夜梅祭りでは、竹灯籠を沿道住民に貸し出し、玄関前の道路に設置することにより、歴史性のある光のみの演出に協力して頂いた。今後、当該道路の歴史性を踏まえ、和風の統一感のある街並みの創出を目指し、都市景観市民協定の締結に向けた取組を進めて行く。	
(外部評価) ・外部有識者名(役職・肩書き等): 鈴木 暎一 (茨城大学名誉教授、水戸市歴史的風致維持向上計画協議会会長) ・外部評価実施日: 平成25年5月21日 ・有識者コメント ○電線地中化により好文亭表門通りの電線や電柱が無くなったため、良好な歴史上空景観が形成された。 ○電線地中化を事業化するにあたり、地上機器の位置を適切な場所に配置するため、沿道の町内会長などと協議し住民が主体的に取組まれたことは高く評価される。 ○道路の歴史性を配慮した美装化は、弘道館と偕楽園の繋がりを表すことを目的に、弘道館正門の石畳を現代風に模したものをに使うなど、歴史的な道路景観形成による整備が行われている。 ○地区内の事業未着手路線について、早期に歴史性に配慮した道路美装化及び電線地中化が推進されるよう期待する。	
(今後の対応方針) ○地区内の事業未着手路線の内、バス路線については、狭あいで屈曲した部分があるため住民の方々と協議をしながら、用地買収を含めた方策を検討していく。	

評価対象年度	平成24年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称:平成25年度第1回水戸市歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時:平成25年5月30日 午後1時30分～午後3時00分 (会場:水戸市役所市民会館1階 会議室1)	
(コメントの概要)	
○進捗評価シートに関するコメント	
「第二中学校周辺環境整備事業」について ⇒第二中学校の二の丸展示館については、歴史的価値の高い展示品も多く、県外から来る観光客にも好評を得ていることは評価できる。 「水戸市民俗芸能文化財等伝承事業補助金交付事業」について ⇒今後、例えば偕楽園内に設置される予定のインフォメーションセンターなど、人の集まる施設で各民俗芸能保存団体の映像を流すなど、PRに努めていただきたい。 ⇒水戸芸術館にて隔年で実施している水戸市郷土民俗芸能のつどいは、多くの参加があるようで、非常に効果的な試みだと思う。 ⇒民俗芸能は一度途絶えてしまうと、復活させるのが難しいが、市では多くの児童が、水戸市郷土かるたを通じて郷土の歴史を学んでいる。遊びの中で伝える工夫は評価できるし、学校規模で実施されている大野みろくばやしや、子どもが体験できるプログラムがある田谷の棒術などは良い取組だと思う。	
○総括評価シートに関するコメント	
「好文亭表門通りの歴史性に配慮した道路美装化及び電線地中化」について ⇒好文亭表門通り及び偕楽園御成門通りはきれいに整備されたが、依然として、駐車場等の関係で東門側に観光バスが集中してしまっている。偕楽園の本来の趣旨からすれば、表門から入っていただくのが望ましいが、案内板を増設するなど、うまく誘導していけるように工夫をしていく必要があるだろう。 ⇒偕楽園に限らず、例えば弘道館・水戸城跡についてもそうだが、回遊性の向上が求められており、今後、市と県、関係機関等で連絡を取り合い、検討していく必要があるし、周辺住民の理解も不可欠である。	
協議会の開催状況→ 	
(今後の対応方針)	
・偕楽園、水戸城跡に限らず、本市の歴史まちづくり事業の推進には、回遊性の向上が重要なテーマであることが改めて示された。その実現のためには、地元住民の協力が不可欠であり、市や県の関係各課と緊密に連携を図りながら、さらに効果的な事業の推進により、歴史のまちとしての風格と魅力の向上に努めていきたい。	